

一般質問通告書

令和4年11月25日

午後2時30分受領

会派名	尾道の会	質問順位	2
質問の件名	一般質問		
質問方式	一括質問方式		
質問の要旨	別紙のとおり		
答弁を求める者	市長ほか関係理事者		
上記通告します。 令和4年11月25日 尾道市議会議員 前田孝人 印 尾道市議会議長 高本訓司 様			

1、尾道市立大学の18億円の図書館建設について

- (1) 本来は藤沢学長が出席して、新図書館建設の目的、意義等について説明すべきである。しかし二度の議員説明会。理事長であり学長を兼任する藤沢学長の出席はない。学長は市議会をどう思っておられるのか。自身からこの計画を発表しかねる何か理由でもあるのだろうか。またこの計画は本当に大学の発案なのか
- (2) 若者の新聞や本などの活字離れが進んでいる時代に、経営の厳しい小規模の市立大学が、1450人の学生のために18億円もの巨額で25万冊（トータルの蔵書は40万冊）の蔵書が収蔵できる大きな新図書館を建設するという。このことを学生達が望み求めているのか。これは図書館を建設しようとする大学の考え、アナログ的な発想だと思う。18億円もかかる新図書館新築は止めて、現図書館を自己資金の5億円で、小規模の市立大学に合ったコンパクトで蔵書の収蔵は少なくとも、IT等が充実している図書館にリフォームして活用することを提案するものだがどうか
- (3) 新図書館の収蔵図書は25万冊とのことである。これだけ膨大な蔵書が1450人の学生に本当に必要なのか。コレクションではないのだから。なかにはほとんど閲覧や貸し出しのない図書も多くあると思う。現在の蔵書15万冊の貸出率、回転率、日々また年間の貸し出し冊数等の棚卸しというか調査は行っているのか
- (4) レイアウトによるとホール、ギャラリーやラウンジ等の計画もあるようだが、これらが本当に必要なのか。都市部の経営基盤の盤石な大規模な大学と同じようにはできないと思うがこの点はどうか
- (5) 建設予定地は構内のオープンスペースとして有効な空間である。この場所に新図書館を建設すると、キャンパスが非常に窮屈になる。現図書館をリフォームして活用し、水源地湖畔のこの場所は緑地、空地として芝を敷き詰め「芝生広場」として学生の憩いの場、イベント広場として残しておくべきであるがどうか

2、久保・長江中学校区の学校再編について

- (1) 3小学校統合校は長江中学校敷地内に、2中学校統合校は久保中学校敷地内に統合再編の案が出た。時間がかかったがなぜもっと早く方向が出なかったのか。指摘をしてきたように、方向性を早く出して校舎を新築したのちに移転すれば、8億円もするプレハブの仮設校舎や1億円にも及ぶ通学バス代は必要なかった。2年も3年もかかるようなことではない。この間も子どもたちはプレハブの仮設校舎で頑張っている。なぜもっとスピード感を持って対応できなかったのか
- (2) この再編案について保護者や地域住民から意見を聞く説明会は持たないという。3年ぶりの提案だというのになんと強引なやり方なのか。従前は保護者や地域住民に向けての説明会を持っていた。それでなくても保護者や地域住民は教育長や教育委員会に不信感を持っているのに。土堂小の仮設校舎への移転説明会で教育長が突然退席したところから、このように高圧的な対応になったと思う。こうしたやり方で理解が得られると思うのか。保護者や地域の皆さんにもっと丁寧な対応を求める
- (3) 3小学校統合校と2中学校統合校は山波小学校も含めて、小中一貫校とするとのことである。教育委員会はいつ尾道市の教育を小中一貫校で行うというか導入するということを決めたか。この制度の導入はどこで論議して誰が、またどこまで深く論議して決定したのか。小中一貫教育、小中一貫校は尾道市の義務教育の体制を大きく変更することになる。広く様々な意見を聴取して決定すべきことである。この度の旧市街地の学校再編のために短絡的に導入するものではない。論議は尽くされているのか。少なくとも2～3年前には尾道市全体に導入することを発表し、尾道の教育をこのようにするというのを広く宣言することが必要だ。そのうえで今回の3小、2中の再編から導入していくという

のが筋である。尾道市全体を見た教育方針を打ち出すべきであると考えてるがどうか

- (4) 3小、2中再編の方向が出たが、私はこの候補地には異論を唱えるものである。候補地を検討するときいろいろな条件がある。この再編を検討するとき広範囲になる学区内からの通学も大きな課題である。必然的に真ん中にある長江にと考えるのが妥当なところである。私は市役所平面駐車場と北駐車場を3小学校統合校の敷地として提案するものである。校舎は市役所北駐車場に日比崎小学校のような立体的な校舎を建設し、小学校専用の歩道橋をかけて平面駐車場のグランドへ。学校はまちづくりに直結していると言われている。この場所は尾道市の中心部であり、久保、長江、土堂学区の真ん中で、それぞれの学区内から通学が可能である。尾道水道に開けたグランド、校舎また商店街等が子どもたちの通学路となり賑わいも継続できる。(仮)尾道中央小学校として最適な場所だと思っている。なお2中学校統合校は長江中学校を考えている。もちろん3小学校区から通学可能であり真ん中にある。山波からの通学もバス停から学校までの距離が短くなる